

開業の本心

**岩村 経子**川和皮ふ科
(横浜市都筑区)

ちょうど2年前、港北ニュータウンの外れにある川和町という所で小さな診療所を始めました。周りは畑が多く、小さな山の麓は毎年3月になると見事な菜の花畑が広がり、4月には大きな桜の木が淡いピンクの花を咲き誇り、やがて夏にはたくさんのひまわりが一行に並んで力強く咲いています。秋の終わりには、木になった蜜柑が色付き始め、正に季節の移り変わりを楽しませてくれる、のどかな一帯です。

開業は以前から計画していたことではなく、自分の生活条件が自然にその方向に向いていった結果でした。勿論、決していい加減な気持ちではありませんが、「強い決意を持って」というよりも、正確に言えば「自然に任せて」という表現の方が正しいのかもしれない。

港北ニュータウンは、豊かな緑に囲まれながら、車で少し行くと全て事足りる商業施設が立ち並ぶ地域で、自然と利便性が共存するその魅力に魅かれ、子供の小学校入学準備にあたる3年前に、この地に転居してきました。今思えば、開業に至る出発点がここでした。

この時点ではまだ開業を意識していませんでしたが、私には解決しなければならぬ差し迫った問題がありました。それは「小学1年生になった子供が登校する時間よりも、私の出勤時間が後でなくてはならない」ことでした。これをクリアするには、職場を自宅近くを選択するしかありません。時期を同じくして、このエリアには地下鉄が開通し新しい駅が出来るという一大イベントがありましたので、それが後押しとなりました。これらの条件が揃って、結果的に私は開業を選択することに決めたのです。

このような流れですから、慌ただしく準備が始まり、右も左もわからないまま、まず場所の決定、資

金、スタッフの募集、医療機器の購入、薬剤の選択……その他、多くのことをこなしていく日々が始まりました。担当して下さったコンサルタント会社の社長さんが、とにかく信頼できる方でしたので、本当に全てお任せでき、非常に助かりました。でも、何もかも準備不足でバタバタと時間が流れる中、初めてお会いする方々と細かい打ち合わせをし、「あれを決めて下さい」「これはどうしましょうか」と質問をされ、迷いながらの決定を繰り返し、一方では今まで経験したこともない大きな金額が動くことに驚きと不安を抱え、その時期は心身共に疲労困憊でした。

それでも何とか開院初日を迎え、診察の合間には種々の不具合に対応しながら、異様な緊張状態のまま、1日の仕事を終えました。信じられないくらいに、その日の出来事を覚えておらず、頭がいかに真っ白だったかがわかります。疲れ切って、一人ぼっちとしている時に頼りにしている先輩の先生から「初日どうだった？」と電話を頂き、私の惨憺たる報告に快活な笑い声を聞かせて下さったことで、ようやく緊張が解れ、正気と元気を取り戻すことができました。

その日から今までの2年間は、本当にあっという間でした。無我夢中に日々を過ごしてきました。私なりの経験を踏まえて今感じることは、開業の契機は生活上の必要性やタイミングなどがありましたが、究極のところ、根底にあったのは私自身が“一生皮膚科に携わっていたい”という気持ちが強かったのだと思います。私のように得意分野もなく、目立つ特長もない者は、自分がまだもう少し続けたいと思っても、時期が来れば病院を辞めなければならない、皮膚科の仕事から離れることはわかっていました。心ゆくまで、好きなだけ皮膚科ができる道を

選択した結果が開業でした。私の父も一開業医ですが、80歳を超えた今でも、毎日診療を続けています。周囲はもう引退しても、と誰もが思っていますが、父自身はやはり仕事が好きで辞めたくないのがよくわかるため、周りは皆それを見守っています。そんな姿を見ると、年を経るに連れて、意外にも自分が父に似ていることに驚いています。

開業によって、自分の周りに感謝すべきことがたくさんあるのに気付きました。たくさんの方々を支えて頂きました。医局の先輩、同期、後輩の先生方、

友人達、仕事でお世話になった方々、お礼を申し上げたい方が溢れるようにたくさんいます。

開業してまで一生皮膚科を続けていたいと思うまでに私に多くのことを教えて下さった西山茂夫先生、恩師の先生方には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私を皮膚科医に導いてくれた両親、姉兄達、そして、いつも私の犠牲になって忙しい毎日を強いられている夫と子供にも感謝を忘れず、日々楽しく一生懸命皮膚科をやっていきたいと思っています。

メディカルモールでの開業を振り返って



山本向三

山本皮膚科クリニック
(横浜市青葉区)

2007年4月に「山本皮膚科クリニック」を開院しました。場所は東急田園都市線、たまプラーザ駅の南口から歩いてすぐの「メディカルモールたまプラーザ」内にあります。開業に際しては様々な動機があると思います。私はただ「開業するなら40歳くらいに！」と曖昧に決めていた程度でした。漠然とした気持ちだけが先行し、初めは開業資金や立地条件など具体的なプランも全くありませんでした。

そんな中、高校時代から親しくしている友人から、「開業するのに良さそうなプロジェクトがあるんだけど参加してみない？」と声がかかったのがきっかけでした。友人は横浜市、川崎市を中心に不動産、設計会社を営む2代目で、彼によると懇意にしている建築家がたまプラーザの再開発地域に医療施設を建築する計画があり、医師を募集しているという内容でした。面白そうなので、早速話を聞いてみようということになり、軽い気持ちで、友人と驚沼にある建築事務所HAKを訪問しました。事務所には、1年後に完成予定のマスタープランの模型がありました。何故かそれを一目見た瞬間、「ここに入ってやってみたい」と思ってしまったのです。クリニックの外側3方が水盤になっていて、一部がウォーターウォールになっているのです。これから何十年

も同じ場所で診療を続けるわけですから、少しでも面白いロケーションで、しかも患者さんにとっても清潔感があり、癒しになる空間になってもらえればと思ったのです。すっかり気に入ってしまい、それから先は、とんとん拍子で計画が進みました。

また、メディカルモール内の他の先生方と、開業に向けて、協力しながら同日開院を迎えられたことはとても有意義でした。産婦人科、歯科、内科のドクターとは年齢、子どもの年齢が近いこともあり、意気投合して様々な面で協力しあっています。全体の方針や催しなどが議題になる月に1回の定例会という名目の飲み会も開業以来毎月欠かさず行っています。これから30年近くは一蓮托生、仲間としてやっていくわけですから、忌憚なく話し合えるコミュニティづくりは非常に大切なことと思っています。産婦人科の桜井先生の発案による年に2回の「健康講座」も開催し、3年目を迎えています。皮膚科医としても微力ですが、一般向けの簡単なお話をさせていただいています。参加される方はまだわずかですが、地域に根付いた医療を目指す開業医として診療以外のことでも少しでも貢献できればと考えています。

近年、複数の開業医を一か所に集めて、効率よく

集患する「ハコモノ・メディカルモール」が建てられるようになりました。医療コンサルタントが医師に代わって全ての手続きも代行してくれます。開業医はその事業者がつくった既製の型に合わせていけばいいので、忙しい私達医師には非常に便利になりました。その分、コスト高になってしまうなどの欠点も多くあります。今回、私もメディカルモールでの開業となったわけですが、少し違いがあるとするならば、建築家と複数の開業医が建物が出来上がる前から打ち合わせを重ねることにより取り組んだモールだということです。既製の医療テナントにはまったというより、バリアフリーはもちろんのこと、街並みとの調和や訪れる患者さんへの配慮といった癒しの空間を作り上げることへの提案も医師自らが

積極的に関わった点が挙げられます。

こうして、40歳を目前にして、一念発起、開院することになりました。現在3年が経過し、患者さんも少しずつ増えているといったところですが。診療については日々勉強、患者さんから教えられることもたくさんありますし、自分の未熟さから反省すべき点も少なくありません。しかし、スタッフには良い方に恵まれ、離職も新規採用もなく開業当初のメンバーで楽しくやっています。非常にラッキーなことだと思っています。

縁もゆかりもなく、出身大学からも離れた地に新参者として開業しましたが、こうして何とかやってこられたことも関係している全ての皆様の支えがあってこそと深く感謝しております。

3年間を振り返って



大塚知子

ともこ皮ふ科
(川崎市多摩区)

平成18年8月1日によみうりランド遊園地の入り口にできました、クリニックモール内に開業させていただき、おかげさまで無事3年が過ぎました。友人や同期たちに、こんな場所で開業して大丈夫なのか？と心配されるような、不便な場所です(笑)。私自身は相当安易に考えていたので駄目だったら、すぐ閉めてまた違う生きる道を探そう……という気持ちで始めた開業でした。今思えば、気楽で安易な気持ちだったから開業できたのかなとも思いますし、同時に地域の患者様方になんと失礼な考えだったかと反省いたしております。しかし、もし開業前に今の大変さをわかっていたら、たぶん開業していなかったと思います(苦笑)。ということで開業してから今までを少し振り返ってみたいと思います。

①開業するきっかけ

将来的に開業したいという希望は漠然とはありましたが、開業するきっかけはとてもいい加減なものでした。近くに叔父の病院があり、知人の紹介でクリ

ニックモールの関係の方とお話しさせていただく機会があり、そのままりサーチもせず気づいたら決まっていた、というものでした。あまり体力もありませんし、アトピー性皮膚炎の持病もありますので無理もできませんし、細く長く続けたい、という希望がありました。緑も多く、山の上で空気もきれい。遊園地の観覧車が見えて、のんびりしている環境で、運動好きな私には車通勤もとても魅力的な条件でした。

②病気と開業

もともと持病であるアトピー性皮膚炎とはまずまずうまくつきあいつつ、開業してから1年少し経った平成20年1月に左耳の突発性難聴を患いました。学生時代に試験のために覚えた知識くらいしかなく、夜中突然耳鳴りが始まり、診療にも支障をきたし、これから仕事を続けられるのかと本当に不安な日々を過ごしました。患者様を不安にさせてはいけないし、笑顔で診療を続けるのは結構大変でした。おかげさまで現在は軽快傾向ではありますが、聴力レベルは少し落ちていて、少し疲れるとすぐ耳鳴り

が始まり、現在でも爆弾を抱えている状態で診療をしています。つついがんばりすぎたようで、生活スタイルやこれからどうやって開業を続けるかを見直す良い機会になりました。この病気がきっかけで土曜日は現在、月1回のみ診療にして、なるべく連休をつくるようにしています。患者様には、土曜日を休むのはとても申し訳ないとは思いますが、やはり開業は細く、長く、体が資本と実感しています。食糧事情も悪い環境なので（コンビニエンスストアと中華料理屋さんのみ）お昼はお弁当を健康、ダイエット、美容?のために作っています。

③電子カルテ導入

3年目を過ぎたころから、双子座B型の性格でしょうか。飽きっぽい性格なのか、今のまま診療していていいのだろうかとか疑問を抱くようになり、もっと患者様に便利になることや還元できることが無いかなと考えるようになりました。クリニックモールの長所はもちろんありますが、短所が目につくようになってきたのです。そこで、4月の診療報酬改定を機に電子カルテを導入することを決めました。ちょうど電子カルテの助成金が出ることもきっかけでした。1月から機種を選定や準備にとりかかり、この原稿を書いている今は既存のデータ移行と、レセプト請求が一緒に重なり忙しさはピークに達しています。もともとパソコンは必要最低限しか使えない人間で（携帯電話も同じく）好きでもないので、今まで積極的に導入せず診療をしてきました。しかし、医療事務のスタッフが入り替わる度に、請求に差が生じたり損金が出てしまったりすることで、患者様に迷惑をかけること、また、診察が終わってから会計終了までに時間がかかっていることが何より気になっていました。スタッフを責めるのではなく何とかできないかと考え、スタッフの入れ替わりがあっても支障の無い仕組みを作ったほうが心労が減ると考えました。この記事が載るころには電子カルテの扱いにも少しは慣れていたいと願っています。

④世間知らず

スタッフのこと、損金のこと、開業するまで考えてもみなかったことでした。開業すると医療・診療以外のいろいろなことを考えなくてはならないので、バランス感覚

がとても大事だなと感じています。給料日が来ると、今まではうれしかったのに支払ってほっとする感覚や、ボーナスの月は支払いが多くて憂鬱になり（本当に身勝手です……）今まで勤務医時代当たり前にしてもらっていた待遇が、立場が違うとこんなに感じ方も変わるのかと思いました。それと、今までしてもらっていた待遇に対して振り返り感謝することができました。また、医療従事者以外の業者さんとの関わりも多くあり、自分自身世間知らず、社会性に欠けていた部分も反省しました。

⑤スタッフのこと

先にご開業されている先輩方に、開業して何が大変かと伺うと、ほとんどの先生が口をそろえて「金銭面よりスタッフ（人）のことが一番大変」と言われます。スタッフ採用募集は、新聞折込やハローワークに出していますが、思ったように集まらないのと（特に看護師さん）、実際面接で良くても一緒に働いてみないとわからないということがよくあって、楽しみ半面憂鬱半面でいつも採用しています。今は応募の少ない看護師さんをいかに、診療の質を落とさずにシフトを上手に回せるかということをお考えしています。そんな中、いろいろ言っても私の気持ちを理解しようと努力してくれ、体調のことを気遣ってくれ、打たれ強く残ってくれているスタッフは29歳から68歳まで合計13名です（写真参照。前列左から3番目が筆者です）。私の母親世代から妹分まで、幅広い年齢層の女子パワー炸裂でがんばっています。患者様とは別に従業員の皆には、ともこ皮ふ科に勤めてよかったと思ってもらえる、外で勤務先を言っても恥ずかしくないクリニックにしたいと



当院の看板娘たちです

思っています。私の独断で決めた電子カルテ導入でトラブル続きの中、時間外や休日出勤もさせていただきましたが、一生懸命協力してくれ、嫌な顔せず仕事してくれる姿を見ると、本当にありがたいと思います。いろいろあるけれど、やはり人は宝だなと思います。私も雇用させていただく立場になり、また今までと違う勉強をさせていただいています。

⑥今後の目標

今は自分のクリニックのこと、病気のことので精一杯になっている状態ですが、もう少し余裕ができれば、

地域のご高齢の患者様のところに往診をしたいと考えています。それからもちろんですが、日常診療も情性にならないよう、患者様に信頼される診療を続けていきたいと思っています。勤務医時代は数年で異動していたので感じませんでした。患者様と信頼関係を長く保つことは、難しいことだと痛感しています。

最後になりましたが、神奈川県皮膚科医会の諸先生方には、未熟で至らない点ばかりですが、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

気がつけば20年目

JR東戸塚駅近くの高層マンション3階のクリニックフロアに平成2年12月に開業し、今年で20年目に入りました。

私は昭和58年、日大医学部を卒業し、駿河台日大病院皮膚科に入局しました。関連病院への出向を終え、専門医、学位を取得した頃、部長である故森嶋隆文先生が主任教授として本院の日大板橋病院へ御栄転される事になりました。板橋に行くか、駿河台に残るか、辞めるか。辞めるにしても開業するには年齢も若く経験も浅かったので躊躇^{ためら}っていたところ、大先輩から「開業も借金も若いうちの方がよい」とアドバイスをうけ、大胆にも皮膚科医8年目にして開業を決めたのでした。夫が内科医なのでいっしょにしようと思っていたのですが所有者であるK組から「もし、いっしょにやるのなら他の皮膚科医を連れてくる」と脅かされ（K組は暴力団ではありませんが）別々のスペースを借りる事になりました。バブル後半で家賃が高く、内科皮膚科2つをあわせるとなかなかのものでした。そのうちにバブルがはじけ、K組も私たちがたいへんな事を理解し、平成4年4月20日、内科のスペースに皮膚科を移動しました。これで平成2年12月開業の「タワーズシティ皮膚科」は閉院になり、私は院長から勤務医に変わ



山本裕子

山本内科タワーズ皮膚科
（横浜市戸塚区）

り、勤務先が「山本内科タワーズ皮膚科」という世にも奇妙な名前のクリニックになったのでした。移動と言っても簡単ではなく、自分の作ったクリニックを壊してスケルトンにして返し、内科の空いている場所を仕切って皮膚科の診察室を作ったのでとても狭く、また1年4ヶ月の間に皮膚科を受診してくださった患者さん全員に手書きで閉院・移転のハガキを書いたり等たいへんでした。そして合併の5日後、実父が他界しました（尾崎豊と同じ日です）。今、思い返してもこの時期は辛く、30代と若かったのでどうにか倒れずに乗り切ることができましたと思います。その後はどうにか軌道に乗り、ひと安心。

合併して10年たち、だんだん新鮮さや緊張感がなくなってきた平成14年2月、初めての入院、初めての開腹手術を経験しました。3週間休診しましたが、その頃はまだ処方^{じやう}が2週間分まででしたのでいろいろ工夫をし、どうにか代診をたてずにすみました。術後のベッド上安静の時間がとてもとても長く感じ、「神様、どうぞ早く自由に動けるようにして下さい。仕事が忙しくても文句は言いませんから」と心の中で思っていたところ、祈りが通じたのか（？）術後2日目で全ての管が抜去され、晴れて自由の身になりました。早速、翌日から病院内をウロ

ウロしていたところ看護師さんに「快復が早いですね」とほめられ、単純な私はさらに元気になって歩き回り、血栓もとばずにすみました。教訓その1「患者さんを、ほめましょう」。また、主治医の仕事は1ヶ月休みなさい、と言われたのにもかかわらずそんなに休んではいられないと3週間で復帰したところ、立ったりかがんだりするとお腹が痛み、きつかったのですが、それも1週間するとうそのように平気になりました。教訓その2「主治医のアドバイスはよくきく事、そして開腹手術をしたら仕事は1ヶ月休みましょう」。

その後の開業医生活では、子供たちに「また来るね」とか「今度はうちに遊びに来てね」と誘われ、元気をもらっています。逆に、自己中心で威圧的、猜疑心が強く、待てない大人たちにとっても困っています。何か良い対処法がありましたら教えて下さい。特別な技術もなくカリスマ性もない私は誠実に親切に、そして患者さんの訴えに耳を傾け地道に仕事をしていくしかないなあと思っています。

東戸塚は高学歴の人が多く、TV番組などで皮膚病が取りあげられると翌日には詳細な鋭い質問を受けるので番組チェックがかかせません（日頃から勉

強していればそんなチェックは必要ないのですが細かい事はすぐ忘れてしまいます）。最近、とみに知識不足を痛感し、時間と体力があればなるべく勉強会に出席しようと思っています。と言っても、最初の頃は、日大出身の先生が少なくかつ人見知り強い私は皮膚科地方会には行っても神皮医会にほとんど参加していませんでした。皮膚科雑誌を読んでも斜め読みになってしまうのに比べ、神皮医会をはじめ勉強会は、その皮膚病の専門の先生が旬のポイントを直接お話しして下さるので理解力が落ちてきた頭にも一つ二つ新しい知識を入れてくれます。

どうにかこうにか20年目に入りました。ここまでこられたのもたくさんの先生方に助けていただいたおかげです。ひとりで仕事をしていると不安になりすぐ紹介してしまいます。結果的には、紹介するほどでない事も多く、病院の先生に御迷惑をおかけしています。また、近隣の皮膚科、形成外科をはじめとする先生、女医の先生や同窓の先生方等、挙げれば限りがないほどです。この場をお借りしまして御礼申し上げますとともに、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

